

ミッション
30周年記念
特集号

30th Anniversary
Special Issue

第8回 アゼルバイジャン難民・ 国内避難民視力支援ミッション報告

The Eighth Fuji Optical Vision Aid Mission for the Refugees & IDPs in Azerbaijan (The 30th Mission since 1983)



感謝の言葉と最大級の賛辞

2012年7月1日(日)～7月13日(金)

From July 1 through 13, 2012

テルテル→ゴランボイ→ラマナ→ UNHCR 難民女性・青少年センター

Terter → Goranboy → Ramana → UNHCR Refugee Women and Youth Center

ミッション代表 株式会社富士メガネ 代表取締役会長・社長兼任

金井 昭雄 O.D. 米国カリフォルニア・ライセンス・オプトメトリスト・ドクター



1年ぶりの再会を喜ぶアリ・ハサノフ副首相と金井昭雄O.D.

サラーム!(こんにちは!)今年で第8回を迎えた「アゼルバイジャン難民・国内避難民視力支援ミッション」は、国連難民高等弁務官 (UNHCR) アゼルバイジャン事務所の要請で、7月1日(日)から13日(金)までのスケジュールで実施されました。今回はナゴルノカラバフ周辺の国内避難民 (IDPs) 居住地、テルテルとゴランボイの2都市を巡回した後バクーへ戻り、ラマナ居住区と UNHCR 難民女性・青少年センターを訪問致しました。メンバーは常務取締役・金井宏将 O.D.、山形総店長(釧路イトーヨーカドー店)、鈴木秀昭店長(青森イトーヨーカドー店)、上井朋実さん(パセオ店)、村山恵美さん(イオン江別店)のほか、北海道大学大学院スラブ研究センターで留学生として勉強しているアゼルバイジャン出身のアリベイ・マムマドフさんが参加してくれ、合計7名でチームを編成しました。プロジェクトの実施に当たり、出発まで数ヵ月間に亘り、UNHCR アゼルバイジャン事務所を通じてのプログラム立案や具体的手順の確認、寄贈眼鏡の製作及び出荷、チームメンバーとの綿密な打ち合わせ、出発間際の機材のバックアップなど一連の作業をこなし、無事予定通り出発に漕ぎ着けることが出来ました。訪問に先立って、各店の皆様に製作していただいた4,500組のメガネのほか、ミッション30周年の節目に当たりシーメンス様から特別にご協賛いただいたオーディオメーター(聴力測定器)3台、補聴器30台と補聴器用電池320本、ニデック様からご協賛いただいた眼内レンズ100枚を含む寄贈品が航空貨物便でバクーへ向け発送されました。これらは6月25日、UNHCR アゼルバイジャン事務所の手続きにより無税通関された後、今回予定されている訪問地へ転送されました。寄贈眼鏡には「原産地証明書」と「品質証明書」が添付されました。